

ヒゲの方へ

表現の自由は憲法で保障されている。断っておくが、ヒゲがあるからその方の人格までを否定するものではない。しかし、それを見て、不快だと思う方もいるのである。

ヒゲを生やす人の心理を考察すると、以下のタイプに分類されるのではないかな。

①無精型

何日も登山等で剃る機会が無かった場合の人は理解できるが、無精は、不潔、迷惑千万論外。人前に出る時ぐらいキチッと剃ってくれ。エチケット（今更・今時？）て何？

②コンプレックス型

頭髪が薄い方に多いタイプ。コンプレックスがある方は、それを他の行為で昇華したらどうか。昇華とは、精神分析の用語。社会的に認められない欲求や無意識な性的エネルギーが、～中略～社会的に（社会性や公共性に富む）価値あるものに置換されること。（出典：広辞苑、加筆）まだ救いようがある。

③ナルシスト型

鏡に向かって、そのヒゲ面を見て「俺って結構いけるじゃん」なんて呟いている方。重症だ。この方達にとってのヒゲは、ある意味化粧の様なものである。男の化粧、薄い方は薄化粧、濃い方は厚化粧、男性が化粧するのは、何か違う。何度も断っておくが表現の自由は憲法で保障されている。自己愛、自己陶醉か。自分に置換えると恥ずかしい。

④権威誇示型

大学の教授や、弁護士、医師等に多いタイプ。その職にありながら、残念ながらその実績が伴わない方が多いのではないかな。その道の半ばにあるものは、ヒゲなど生やさずその道に精進し、自他ともに認められてからでも遅くはないと思われる。しかし、その道を究めた（極めたではない）方は人格が高く、ヒゲなど生やさないのである。学校の先生のヒゲ→教師ならきれいに剃れ→教師でない→では何なのか→反面教師。笑い事ではない。

⑤××被れ型

若い方が、何かに憧れてそうすることは、若気の至りで許容されるのであろうが、良い年齢に達した方がそうするのは、社会的にどうかということである。人間は一人で生きていけないことを未来ある人に伝える年齢なのであるから。ガキにものが言えない。

⑥漁色家（スケコマシ）型

社会的に稚拙で、自己中心的な考えがある方に多いのではないかな。独善的である。周囲が厳しく咎めることが出来なかったのか。あの金メダリストがその一つの例であろう。

⑦内向型

自己中心的とは少し違って、他人が目に入らない。何かに没頭し、憑りつかれているかの様な印象である。一人で取組んでいる研究者や所謂マニアの一部に多いタイプである。

⑧ミーハー・ファッション型

最近増えてきたのがこのタイプ。ベルボトムにロンドンブーツ、紅茶キノコ、えりまきトカゲにウーパールーパー。まあ、しばらく我慢しよう。何れ無くなることに違いない。

上記①～⑧が気付いた点である。まだあるかも知れないし、その複合型もあるかも知れない。その分類や内容に異論や否定もあるだろうが、あくまで自論である。悪しからず。

ヒゲの調理人に客の一人として、一言申し上げる。何の理由でヒゲを生やしているのか分からないが、極めて不快なので即止めてくれ。不潔な印象が拭い去れない。以前述べたが美味い不味いは、五感で感じるものだ。不快・不潔と共感される方は多いと断言する。

食に携わる者のヒゲは、良くて（心の）カビ、悪く言えば陰毛、何れにしても、それをさんざんいじくった手で食材を扱われると、口にする気にならないのはワシだけかな？